

第2節 証券および利賦札

○無記名国債証券ノ効力発生時期ニ関スル件

(明治39年12月4日 整発甲第416号)
(大 蔵 省 議)

過般来日本銀行本支店並ニ出張所間ニ無記名国債証券ヲ転送中盗難等ノ為メ紛失セシコト数回ニ及ヒ日本銀行ノ之ニ対スル責任ニ関シテハ其ノ都度伺済ニ候処此等ノ証券カ果シテ有効ノモノニシテ政府ハ之ニ対シテ仕払ノ義務アリヤ否ヤノ問題ヲ生スルニ至リ候 之ヲ法理上ヨリ論スレハ現行民法ハ無記名債券ノ効力ニ関スル規定詳密ヲ欠キ其ノ効力発生ノ時期ニ関シテハ法条ノ抛ルヘキナク又大審院ノ判例モ決定スルニ至ラスニ推論ヲ以テ決定ス可キモノニ有之候 此ノ問題ハ手形理論ニ関聯シ議論頗ル多端ニ亘ルモノニ有之候ヘトモ無記名証券ニ関シテハ次ノ2説ヲ仮想スヘキモノニ有之候

(甲説) 無記名証券ハ其ノ発行者カ之ヲ発行者以外ノ者ニ交付シタル時ニ其ノ効力ヲ生ストスル説

抑モ無記名証券ノ発行者カ其ノ証券ヲ作製スルモ未タ之ヲ他人ニ交付セサル以前ハ任意ニ之ヲ破毀スルコトヲ得ルヲ以テ未タ其ノ効力ヲ発生シタルモノト言ウコトヲ得ス 然レトモ一度之ヲ他人ニ引渡シ之ヲ任意ニ処分シ得サルニ至ルトキハ初メテ其ノ効力ヲ発生ス 即チ其ノ債權ニヨリ拘束ヲ受クルニ至ルモノニシテ証券ノ作製ト其ノ交付トノ二要素ヲ以テ初メテ其ノ効力ヲ発生ス故ニ発行者ノ意思ニ基キ他人ニ交付スルニアラサレハ其ノ証券ハ絶対的ニ効力ヲ生スルモノニアラス 斯ノ如ク解スレハ實際上多少ノ不便アル可シト謂モ法理当然ノ要求ハ如何トモ為ス可カラス 若シ之ヲ避ケントセハ独乙民法第794条ノ如キ規定ヲ設クルノ外ナシ

(参照) 独乙民法第794条第1項無記名債券ノ発行者ハ其ノ証券カ盗難遺失其ノ他其ノ意思ナクシテ流通スルニ至リシトキト雖モ其ノ責ニ任ス

(乙説) 無記名証券ハ証券作製完了ノトキニ其ノ効力ヲ発生ストスル説

無記名証券ハ其ノ作製完了ノ時ニ其ノ効力ヲ発生ス 其ノ所以ハ発行者ハ其ノ証券カ他人ノ手ニ歸シタルトキハ其ノ者ニ対シテ所定ノ金額ヲ仕払フ可キ一方的ノ約

東ヲ為シ此ノ一方的ノ約束ニ基キ債務ヲ負担ス可キモノナレハナリ 発行者以外ノ
或ル者ノ為ニ債権ノ成立スルニハ其ノ証券カ自己ノ手裡ニ歸スルノ事実アレハ足レ
リ 是レ債権債務ノ發生ニ当事者ノ複数ヲ要スルハ（債権者ト債務者トノ2人格ア
ルコトヲ要スルヲ云フ）法理当然ノ要求ナルニ依リ証券ノ発行者カ其ノ作製シタル
証券ヲ保有スル間ハ未タ其ノ債権ヲ行使スルコトヲ得スト雖モ苟モ何等カノ原因ニ
基キ当事者ノ複数ナル要件ヲ満タスノ事実ニ遭遇スルトキハ忽チ其ノ活動ヲ呈スル
モノナリ 故ニ其ノ作製完了セシ以上ハ債務者（即チ発行者）ノ意思ニ基キ流通ス
ルヤ否ヤハ毫モ問フ所ニアラス 独乙民法第794条ノ規定ハ注意的ノモノタルニ止
ル。

右両説ノ結果トシテ証券ノ作製完了シ未タ之ヲ他人ニ交付セサルニ先立チ例ヘハ盜
難等ニ罹ルカ如キコトアルトキハ甲説ニヨレハ其ノ証券ハ全ク無効トナリ乙説ニヨル
トキハ常ニ有効トナルノ結果ヲ生ス 抑モ乙説ニアリテハ証券カ其ノ発行者ノ手裡ニ
存スル間ノ権利關係ヲ説明スルニ当リ多少困窮スル所アリト雖モ無記名証券ニシテ其
ノ形式完備セル以上ハ証券ノ取得者ハ其ノ流通カ発行者ノ意思ニ基キタルヤ否ヤヲ鑑
別スヘキ何等ノ標準ナク且ツ我民法第473条ニ無記名債権ノ債務者ハ其ノ証書ニ記載
シタル事項及其ノ証書ノ性質ヨリ当然生スル結果ヲ除ク外原債権者ニ對抗スルコトヲ
得ヘカリシ事由ヲ以テ善意ノ譲受人ニ對抗スルコトヲ得スト規定シ勉メテ其ノ証券債
権タルノ性質ヲ明ラカニシ其ノ流通ヲ保護セントスル精神ニ考フレハ甲説ノ如キモ亦
社界ノ実勢ニ合セサルノ憾ナシトセス 加フルニ我国債証券ニ関シテハ本年法律第34
号ヲ以テ無記名国債証券ノ亡紛失ニ対シテ交付ヲ全廢シ且ツ民法施行法第57条除權判
決ノ適用ヲ除外シ以テ無効証券ノ世上ニ流通スルノ途ヲ杜絶シ其ノ取引ヲ安全ナラシ
メントセル精神ヨリ見レハ乙説カ其ノ目的ニ合セルコト謂ハスシテ明カナル儀ニ有之
候 之ニ反シテ若シ甲説ニヨリテ解スルトキハ無記名国債証券ノ製造完成後任意ニ之
ヲ債権者（応募者引受人等）ニ交付スル以前当局工場又ハ日本銀行ノ取扱中ニ盜難其
ノ他ノ事故ニ因リ市場ニ流通スルニ至リタルトキハ其ノ証券ハ当然無効ノモノタルヲ
以テ証券ノ取引ニ従事スルモノハ常ニ無効証券ヲ取得スルノ危険ヲ冒サ、ルヲ得ス為
ニ公債ノ声価ニ影響スル所少ナカラサルモノト存セラレ候 而シテ斯克ノ如キ事情ノ
下ニ証券ノ紛失スルハ従来ノ例ニ照セハ実ニ稀有ノコトニ屬スルヲ以テ（前後2回ノ
ミニ有之候）乙説ヲ採ルモ政府ノ被ルヘキ損害ハ極メテ尠少ニシテ国債制度上ノ利害
ハ極メテ偉大ナルヲ以テ上述ノ理由ヲ以テ法律第34号国債ニ関スル法律施行以後ハ凡
テ乙説ニ省議御決定相成可然哉此段仰高裁